

スポーツ振興への取り組み

様々なスポーツ活動への積極的な支援を通じて、スポーツや地域社会の発展に貢献します。

「Tリーグ」オフィシャルパートナー

一般社団法人Tリーグの「世界No.1の卓球リーグを実現する」「卓球のスポーツビジネス価値を高める」「卓球を通じて人生を豊かにする」という理念に賛同し、2018年から卓球リーグ「Tリーグ」のオフィシャルパートナーとなりました。

当社は今後も、未来のアスリートの育成、卓球文化の振興活動の支援を行ってまいります。



TOPICS

ノジマTリーグ 2025-2026シーズン プレーオフ 男子セミファイナル・女子セミファイナルに協賛

ノジマTリーグ 2025-2026シーズン プレーオフ セミファイナルに協賛し、2026年3月21日(土)、東洋大学赤羽台キャンパス HELSPO HUB-3アリーナにて「東亜合成 presents 男子セミファイナル」「東亜合成 presents 女子セミファイナル」が開催されました。当日は2,300名を超える観客が来場し、白熱した試合を見守りました。また、女子セミファイナルでは小淵社長が始球式を担当し、日本ペイントマレッツの芝田沙季選手とのプレーで会場を大いに盛り上げました。



小淵社長による始球式の様子



会場の様子

「いわきFC」協賛

広野工場は、J2リーグに加盟する福島県のプロサッカークラブ「いわきFC」と2022年からパートナーシップ契約を締結しており、応援しています。



私たちは **IWAKI FC** を応援しています。

「MINATOシティハーフマラソン2025」協賛

「MINATOシティハーフマラソン2025」が2025年11月16日(日)に開催されました。本大会は、多くの区民が参画できるスポーツを通じた地域共生社会の実現を目的として、2018年から港区マラソン実行委員会が主催し実施されています。

当社も東京都港区に本社を置く企業として、社会貢献および健康経営推進の観点から、第1回大会から本大会に協賛しており、現在は最上位のプラチナ協賛会社となっています。

SPECIAL INTERVIEW

スペシャル インタビュー

変えるものと、変えないもの。
どちらも大切にしながら
苦しいときにも成長を
あきらめない自分でいたい。

MIU HIRANO

木下アビエル神奈川

平野 美宇 さん

PROFILE

2000年生まれ。3歳で卓球を始め、2017年アジア卓球選手権女子シングルスで優勝。2016年リオ五輪でリザーブ選手となった経験を糧に、オリンピック東京2020大会、パリ2024大会で女子団体銀メダルを獲得。2022年より木下アビエル神奈川所属。Tリーグには2018-2019シーズンより参戦し、8シーズン中7シーズンの優勝を経験。2025-2026シーズンではシングルス勝率75%を記録。常にリーグ上位の成績で活躍している。

2018年秋に発足したプロ卓球リーグ「Tリーグ」。当社がオフィシャルスポンサーを務める同リーグの中心選手として活躍するのが平野美宇選手です。華々しい実績の裏で、人知れぬ葛藤を乗り越えてきた彼女が見つめる未来の景色とは――。アロンアルファを通じた当社との意外な縁についても伺うことができました。

自分は“ラッキーパーソン”だと思います。選手として大切な時期にTリーグが開幕して、トップレベルの選手たちと切磋琢磨してこられたこともそうですし、そのTリーグで何度も優勝を経験できているので。

Tリーグ選手としては、2018年からオフィシャルパートナーを務めてくださっている東亜合成さんにとっても感謝していますし、個人的に親近感やご縁も感じています。



※ 本インタビューは2026年3月に実施したものです。

練習中、ラケットを卓球台にぶつけて木の剥がれができたときなど、それを直すのにアロンアルファを使わせてもらっているんです。私は1つのラケットを3年、4年と使い続けるので、アロンアルファもプレーを支えてくれる味方のように思っています。

Tリーグ開幕は選手生活の大きなターニングポイントになりましたが、リオ五輪でのリザーブ経験も忘れられません。他の選手が試合をするのを、私は観客席で観ているしかできない――その状況がとても悔しくて。代表になるためには、練習の量も、質も、プレーに対する考え方も、あらゆることを「変えないといけない」と痛感しました。練習量で言えば、朝9時から夜9時まで没頭するようになるなど、自分でも“私は変わった”という実感がありません。

変えないといけないことは、これからの選手生活でもたくさんあると思います。プレースタイルや目標もそうですし、時代とともに変わる卓球の球やラケットに合わせて、自分の技術を進化させ続けることも必要です。

一方で、変わらず持ち続けていたいものもあって、その1つが「逃げない気持ち」です。試合に勝ったときは楽しいけれど、負ければ辛いし、卓球を好きになれない瞬間もたくさんあります。逃げてしまえば楽ですが、それでは自分の夢は叶わず、卓球以外の全ても中途半端に終わってしまうように思います。これからも、自分で決めたことには背を向けず、粘り強く取り組んでいこうと思います。いつも身近に愛用しているアロンアルファのように、タフで粘り強い卓球選手でいたいですね。